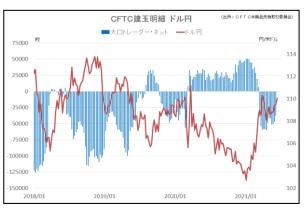
● 日産証券

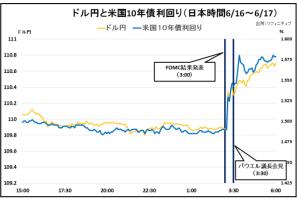
CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】





予想される≫としたが、FOMCを控え、様子見ムードが続いていたが、注目のFOMCで政策金利見通しを示すドットチャートが、2023年の利上げを見込む参加者の数が前回の7人から13人と2倍近くに増え、2023年末までに2回の利上げを見込んでいたことで、市場の想定よりもタカ派的と受け止められ、米10年債利回りは1.49%前後から1.59%近辺まで上昇。ドル円も110台後半まで急伸となった。

18日の日銀金融政策決定会合では、金融政策に変更はなかった。「新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラム」の期限を2021年9月末から2022年3月末に延長することを決定。金融機関の気候変動対応の投融資を後押しする新たな資金供給策の導入も決めたことはサプライズだったものの、市場の反応は限定的。

タカ派色を強めた印象のFRBとは対照的に、ECBは慎重姿勢を崩していない。PEPP縮小の議論については時期尚早との見方と、議論開始の必要性を示唆する見方が対立している。ユーロ相場は対ドル、対ポンドともに軟調に推移した。

CX週間展望(6月21日~)

● 日産証券

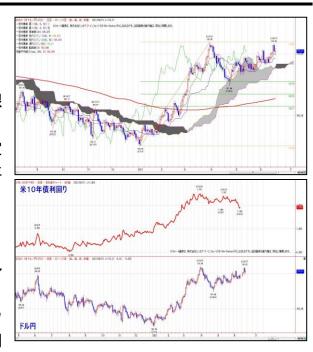
調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、セントルイス連銀のブラード総裁が18日朝に米CNBCに出演し「インフレの加速は想定していた以上だ」と述べ、2022年にも利上げに動くと予想した。16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で公表された23年の利上げ開始予想より早まるとの見方が広がり、ドルが主要通貨に対して上昇した。

円売りドル買い一巡後は、NYダウは前日比533ドル安で終え、米長期



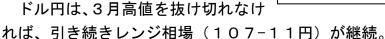
金利が低下し、日米金利差縮小を見込む円買い・ドル売りが入り、方向感なしの 展開。CFTC建玉明細は、祝日の影響で現地時間6月21日(日本時間の22 日朝8時頃)に発表。

NYダウは、5日続落。ナスダック総合株価指数は反落。

18日は先物やオプションで日本の特別清算指数(SQ)の算出日にあたる「クアドルプル・ウィッチング」であり、相場変動が一段と高まった。

【今週見通し・戦略】

今回、2023年に0.25%の利上げが2回あると示唆されたことが、サプライズになったものの、FF金利先物は、既に2回超の利上げを織り込みながら推移しており、FRBの見通し通りに推移したとしても、金融市場の想定内でのシナリオと言えるかもしれない。





9

● 日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(6/18 清算値:6,319円)(1)

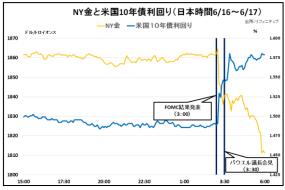
【前週レビュー】

先週レポートで≪FOMCで量的緩和縮小(テーパリング)の議論が開始される可能性があるが、インフレは一時的との見方が強調されるという市場コンセンサスから大きなサプライズがなければ、上値の重い米長期金利面からは、金の下値は限定的。

一方、最近はユーロが崩れた時にN Y金の下値も大きくなっており、ユーロドルの動きには注意したい。資金流出が続いていたビットコインも、上値は重いものの、下値も限定的。横ばいからの保合い放れ待ちとなっている。

上海金のプレミアムが6月に入り、 ディスカウントに転じたことは金の上





値を抑える要因。当局の商品高に対する相次ぐ規制・牽制もあり、高値警戒感から実需筋が買いを見送っている≫としたが、先週のNY金(8月限)は、FOMCのタカ派姿勢を受けて急落した。200日移動平均線を割り込み下げ加速。16日には長い下ヒゲを付けて、押し目買いも見られたが、底値候補と見られた同下ヒゲ安値を17日に割り込み、パニック的な下げとなった。

FOMCの金利・経済見通しでは18人の当局者の過半数が2023年に少なくとも2回の0.25%の利上げを予想した。またパウエルFRB議長はFOMC後の記者会見で、量的緩和の縮小(テーパリング)について「討議することを開始した」と表明。米国債の利回りが上昇し、ドル高・ユーロ安に振れた。

主要7カ国首脳会議(G7サミット)は13日、共同声明を発表し、中国に対して新彊ウイグル自治区での人権尊重、香港の高度の自治を求めたほか、東・南シナ海での一方的措置に反対する姿勢を示した。また、北大西洋条約機構(NATO)首脳会議は14日、共同声明で「中国の野心や強硬姿勢はルールに基づく国際秩序と同盟の安全保障に対する体制上の挑戦をもたらす」とした。

3

日産証券

CX週間展望(6月21日~)

菊川 弘之

金標準先物(6/18 清算値:6,319円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(8月限)は、続落し た。セントルイス地区連銀総裁のタカ 派発言をきっかけに戻りを売られて軟 調となった。ドル高も圧迫要因となり、 時間外取引の安値を割り込むと、17 68. 2ドルまで下落した。ただ米国 債の利回り上昇が一服し、金には買い が入り、前日終値を上回る場面もあっ た。前日に中心限月として1ヶ月半ぶ りの安値をつけ、値ごろ感からの買い も入りやすかった。

CFTC建玉明細は、祝日の影響で 現地時間6月21日(日本時間の22 日朝8時頃)に発表。



【今週見通し・戦略】

パウエルFRB議長は、あくまで金利予想であって、今後の政策見通しを示す ものではないとし、現在取り組んでいるのは量的緩和縮小であって、利上げでは ないと述べていることもあり、米長期金利上昇は限定的となっている。

中国政府は5月に入り立て続けに取引規制の強化に動いていたが、16日には 中国国家糧食物資備蓄局が、商品価格を安定させるために銅・アルミニウム・亜 鉛の国家備蓄放出を発表したことも、金の大幅続落の一因となった。中国国家発 展改革委員会は17日、商品指数の新規制を8月1日に発効するとも発表。

ただし、テクニカル的なダマシが多く、ボラティリティが高まると言われる水 星の逆行期(5月29日~6月22日)も終了する。メリマンの重要変化日が、 6月22日~23日。満月が6月25日。既に3月安値から6月高値までの上昇 に対する61.8%押しを達成し、RSIも短期的な売られ過ぎ感を示している。 昨年3月の水星逆行期(2月16日~3月9日)のように、上下にアップダウン 繰り返し後に付けた安値が買い場となるパターンになるかもしれない。底打ち確 認はできていない状況だが、短期売買は別にして、中長期的には買い場探し。

日産証券

CX週間展望(6月21日~)

菊川 弘之

白金先物(6/18 清算値:3,795円)

【前週レビュー】

先週レポートで≪NY白金(7月 限) は、3月安値(1115.2ドル) ~心理的節目1100ドル、東京は心 理的節目4000円~3月安値(38 26円)の攻防が焦点。~中略)。

下放れれば、一旦は下げ加速≫とし たが、先週のNY白金(7月限)は、 米連邦公開市場委員会(FOMC)の



タカ派姿勢によるドル高や金急落を受けて一段安となった。内外でレンジ下限を 割り込んだ。

週末のNY白金(7月限)は、続落。セントルイス地区連銀総裁のタカ派発言 をきっかけとしたドル高や株安、金反落を受けて戻りを売られた。時間外取引の 安値を割り込むと、テクニカル要因の売りが出て1月11日以来の安値1037. フドルを付けた。CFTC建玉明細は、祝日の影響で現地時間6月21日(日本) 時間の22日朝8時頃)に発表。

【欧州自動車工業協会(ACEA)】

5月の欧州連合(EU26)の新車(乗用車)登録台数は前年同月比53.4% 増の89万1665台。増加したが、2019年5月の120万台を下回った。 1~5月は前年同期比29.5%増の431万4264台。1~2月に減少した が、3~5月の増加に相殺され、プラスとなった。

【今週見通し・戦略】

米国は段階的に制限緩和に向かっているが、英国は14日、新型コロナウイル スの感染拡大を抑制する制限措置の解除を1カ月間延期し、7月19日にすると 発表。変異株の感染拡大が背景。

⁻ 当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、 完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・ 損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。 当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

● 日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(6/18 清算値:234.5円)

【先週レビュー】

先週レポートで≪当先の逆鞘が拡 大しており、上海下落に追随した先限 も、産地対比での割安感もあり、逆鞘 に売りなしも意識されやすい。ただし、 6月の月間騰落率は圧倒的に売り優 勢の時間帯で、産地のコロナに伴う供 給障害が深刻化しなければ、戻りは売



られやすい地合いか?心理的節目250円が上値抵抗≫としたが、先週のRSS 3号は、薄商いの中、上海安や他商品安を受けて、売り優勢の展開。

中国当局の銅等の非鉄金属備蓄放出決定により中国関連商品が軟化し上海ゴムは13,000元を割れた。FOMCでは、市場の想定よりも早く2023年末までに2回の利上げを見込む参加者が過半数を超えるタカ派的な内容でドル高・ユーロ安・金安が進行する中、RSS3号先限は一時230.2円まで売られた。

【中国の自動車販売台数】

中国汽車工業協会(CAAM)が発表した5月の中国の自動車販売台数は、前年同月比3%減の213万台となり、14カ月ぶりに前年同月で減少に転じた。なお、1一5月の累計の自動車販売台数は1088万台となり、前年同期比36%増。5月の中国の自動車販売が、前年同月で減少した背景について、CAAMは世界的な半導体不足を挙げている。

【今週見通し・戦略】

中国国家発展改革委員会は17日、「微信」の公式アカウントで、コモディティー(商品)とサービスの価格指数の管理に関する新たな規制を設けると発表。中国政府は国内のコモディティー市場の監視を強化し、インフレ抑制に努めている。新規制は8月1日に発効する。

国内市場は逆鞘進行が継続だが、先限の戻り売り基調に変化はないか?金が底打ちを見せた際には、短期的に追随しそうだが、株価の大幅高等がなければ、戻りは売られやすい地合い。

6

● 日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(6/18 清算値:53,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで≪最終生産高に影響を与える8月の天候懸念が通過するまでは、下値は限定的な展開となりそう。シカゴは5月安値を割り込まない限り、長期上昇トレンドは崩れない≫としたが、先週のシカゴ大豆(11月限)は、米中西部産地での降雨予報を受けて土



壌水分の回復と作柄改善見通しが強まった穀物市場独自の要因に加え、米連邦公開市場委員会(FOMC)を受けて浮上した資産購入規模の縮小(テーパリング) 観測とドル高進行が嫌気され、ダブルボトム完成から大幅続落となった。6月14日以降、わずか4日間の続落で、3月末以降の上げ幅を一気に相殺した。

週末のシカゴ大豆(11月限)は、急反発。前日の暴落に対する修正高。ドル高や米株安は続いているものの原油が持ち直したことや、米農務省(USDA)が干ばつの影響を受けている大豆の面積を36%と、前週の31%から上方修正したことで再び買い直された。また、この日アルゼンチンで港湾の穀物ターミナルの労働者のストライキを実施していることも支援材料。

【週間純輸出制約高(6月3日までの一週間)】

21万6000トン(事前予想レンジ:10万~130万トン)

【週間作物進度報告(6月13日までの週)】

作付け:94%(前週90%、前年92%、平年88%) 発 芽:86%(前週76%、前年79%、平年74%)

「良」以上: 62%(前週67% 前年72%) 「劣」以下: 8%(前週6% 前年4%)

【今週の見通し・戦略】

シカゴはダブルトップからの下げ加速となったが、最終生産高に影響を与える 8月が無事に通過するまでは、下値は限定的か?中国の商品規制の動きが上値抑 制要因だが、米中西部は干ばつ傾向が予想されている。

日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(6/18 清算値:36,060円)

【先週レビュー】

先週レポートで≪5月高値~心理的 節目650やの攻防戦。600やを超 えた時に空けたGAPが下値支持帯。

天候相場の天王山と呼ばれる独立記 念日前後の天候が焦点となる≫とした が、先週のシカゴは、大幅安となった。 米農務省(USDA)発表の13日時 点の作柄報告は良以上が68%となり、2018年1月



前週から4ポイント(4%)の低下となったが、コーンベルトの気温が低下し、 17~18日に降雨予報があり、高温乾燥による作柄悪化シナリオが後退した事 に加え、FOMCでテーパリングを前倒しで行うとの見解が示され、ドル高・商 品市場全面安の流れに巻き込まれた。

週末のシカゴコーン(12月限)は、急反発。前日の暴落に対する修正高とな った。ドル高や米株安は続いているものの、米農務省(USDA)が干ばつの影 響を受けている面積を41%と、前週の35%から上方修正したことで再び買い 直された。アルゼンチンで港湾の穀物ターミナルの労働者のストライキを実施し ていることも支援材料。

【週間純輸出制約高(6月3日までの一週間)】

21万6000トン(事前予想レンジ:10万~130万トン)

【週間作物進度報告(6月13日までの週)】

発芽率: 96%(前週90%、前年94%、平年91%)

「良」以上:68%(前週 72% 前年71%) 「劣」以下: 5%(前週 5% 前年 5%)

【今週の見通し・戦略】

中西部に干ばつ警戒が出されており、受粉期にどの程度の影響を与えるかが焦 点。大豆と異なり、コーンの受粉は一回のみ。

● 日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで≪イラン国営石油 (NIOC)は「制裁が解除されれば、 国内の原油生産の大半が1カ月以内に 復旧する見通しだ」とし、(生産量を) 日量400万バレル以上に増やしたい と発言しているが、合意に至っても、



一気にイラン産原油の供給増加につながるかどうかは不透明で、中東の地政学如何では、上値リスクの高止まりが続く時間帯。

2015年の核合意の履行後、1日当たりのイラン平均生産量は日量338万 バレルだったが、合意に至っても当初は100-150万バレル程度で収まり、 アフターコロナでの需要増加と相殺されるのではないかとの見方も強い≫とし たが、先週のNY原油(7月限)は、週前半はワクチン接種の拡大によって主要 国では新型コロナウイルスの流行が沈静化しつつあり、石油需要が年後半に本格 的に回復する見通しであることが相場を押し上げた。

米エネルギー情報局(EIA)週報で石油製品需要が大台の日量2000万バレルを上回った。経済活動が正常化していることや季節的な要因もあって、ガソリン需要は日量936万バレルと堅調だった。製油所稼働率は92.6%まで上昇し、新型コロナウイルスがパンデミックする前の水準で回復を続けている。原油在庫は4週連続で減少した。精製稼働率の上昇などが寄与した。クッシングの原油在庫も減り、需給改善が期待された。

週後半は、米連邦公開市場委員会(FOMC)後のドル高進展に圧迫されたが 下値は限定的。

イラン核合意の米国の復帰を巡る協議は進展していると報じられているもののまだ合意には至っておらず、6回目の協議が18日のイラン大統領選後の19日から再開される予定。イラン大統領選は反米保守強硬派のシーア派聖職者のライシ司法府代表が有利とされているが、どの候補が当選しても協議は継続される見込み。

一方、英国で変異株「デルタ」の感染拡大が報じられており、上値抑制要因と なっている。

-9

● 日産証券

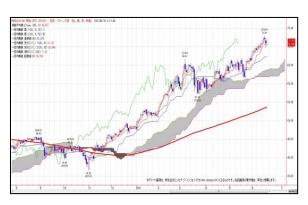
CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

N Y 原油(8月限)は、反発した。 ドル高傾向や米株安は上値抑制要因 だが、石油輸出国機構(OPEC)関 係者が2021年の米国の原油生産 の伸びが抑えられるとの見方してい



ることが報じたことで買われた。価格上昇に敏感なシェールオイルの生産増加が 投資効率などの面からそこまで見込めないとの見方がその背景。

ロイター通信によると、OPECプラスの技術専門委員会が17日に会合を開き、原油価格の上昇にも2021年の米国原油の生産量の伸びは日量20万バレル程度に抑制されるだろうとの見通しを示した。ただ、2022年は同50~130万バレル増加するとの見通しを明らかにしている。

ただ、上値は重かった。セントルイス連銀のブラード総裁は 18 日朝、米 CNBC に出演し「インフレ加速で米連邦準備理事会 (FRB) は 2022 年にも最初の利上げをするだろう」と述べた。16 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) では 23 年の利上げ開始予想が示されたが、想定より早まるとの見方を誘った。

CFTC建玉明細は、祝日の影響で現地時間6月21日(日本時間の22日朝 8時頃)に発表。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが18日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油掘削リグの稼働数は前週比8基増の373基と、2020年4月以来の高水準となった。

一方、国内天然ガス掘削リグの稼働数は前週比1基増の97基と、6週間ぶりに増加した。



● 日産証券

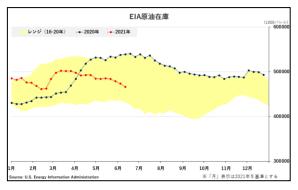
CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

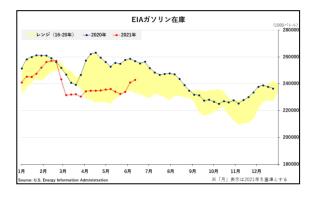
東京原油(3)

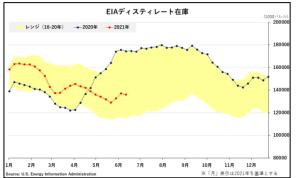
【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

原油 4億6667万バレル クッシング 4355万バレル ガソリン 2億4298万バレル 留出油 1億3619万バレル 前週比
735万5.000バレル減少
215万バレル減少
195万4000バレル増加
102万3000バレル減少









【石油連盟週報】

石油連盟週報(6日~12日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比1.2%増の229万9633キロリットル。灯油在庫は、同2.1%増の160万4034キロリットル。週間原油処理量は1.5%増の243万9478キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが5.3%減の77万8513キロリットル、灯油が50.8%減の6万6119キロリットル。

^{□ 1} □ 当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、 完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・ 損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。 当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

● 日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

東京原油(4)

【見通し・戦略】

原油相場については、米ドライブシーズンが始まっており、コロナ自粛の反動もあり在庫は減少傾向を辿りそうだ。国際エネルギー機関(IEA)最新月報で、原油油需要は、2022年末までにパンデミック前の水準に戻ると予想されている。

米シェールの増産ペースが鈍いことも価格押し上げ要因。

石油輸出国機構(OPEC)経済委員会は、15日の会合で米原油生産について協議したところ、原油価格が上昇しているものの、2021年の米石





油生産の伸びは限定的になるとの見方が指摘された。17日に開催した「OPECプラス」の技術専門委員会でも、21年の米原油供給の伸びは日量20万バレル程度に抑制される一方、22年については日量50万~130万バレル増との予想レンジが示された。

目先は、イランと米国との核合意復帰と制裁解除の行方が注目。イラン国営テレビは19日、大統領選で保守強硬派のライシ師が「勝利した」と伝えた。イラン国営石油(NIOC)は「制裁が解除されれば、国内の原油生産の大半が1カ月以内に復旧する見通しだ」とし、(生産量を)日量400万バレル以上に増やしたいと発言している。2015年の核合意の履行後、1日当たりのイラン平均生産量は日量338万バレルだった。

イランは制裁解除されれば、1ヶ月ほどで日量100~200万バレルの増産は可能との観測もあるが、2015年の制裁解除時もフル生産に回復すまでには、時間が掛かった。核合意復活のヘッドラインが流れると一時的に売り圧力が高まるかもしれないが、すぐに市場はイラン産の生産回復スピードを見極めようとしそうだ。米ドライブシーズン入りに加えて、米国ではハリケーンシーズンにも入っている。株式市場の更なる大幅調整がなければ、高止まりしそうだ。

12

● 日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定(6/21~6/27】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定
6月21日(月)	10:30	中国	6月	貸出基礎金利 1年
	10:30	中国	6月	貸出基礎金利 5年
6月22日(火)	0:00	米国	6月14日, 週次	週間穀物輸出検証高
	23:00	米国	5月	中古住宅販売戸数
	23:00	ユーロ圏	6月	消費者信頼感指数 速報値
	納会	米国		NY原油2021年7月限納会
6月23日(水)	5:30	米国	6月14日, 週次	API週報
	17:00	ユーロ圏	6月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値
	17:00	ユーロ圏	6月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値
	17:00	ユーロ圏	6月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値
	21:30	米国	Q1	経常収支
	22:45	米国	6月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値
	22:45	米国	6月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値
	22:45	米国	6月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値
	23:00	米国	5月	新築住宅販売戸数
	23:30	米国	6月14日, 週次	EIA 週報
6月24日(木)	8:50	日本	6月14日, 週次	対内中長期債投資
	8:50	日本	6月14日, 週次	対外株式投資
	21:30	米国	5月	耐久財受注
	21:30	米国	6月14日, 週次	週間穀物輸出成約高
	21:30	米国	Q1	国内総生産 (GDP) 確報値
	21:30	米国	Q1	コア 個人消費支出 (PCE) 価格 確報値
	21:30	米国	6月14日, 週次	新規失業保険申請件数
	23:30	米国	6月14日, 週次	EIA週報
	納会	日本		東京ゴム(RSS3)2021年6月限納会日
	納会	日本		東京金ミニ・白金ミニ2021年6月限取引最終日
6月25日(金)	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細
	17:00	ユーロ圏	5月	マネーサプライ M3 伸び率 (前年比)
	21:30	米国	5月	個人所得(前月比)
	21:30	米国	5月	実質消費支出 (前月比)
	21:30	米国	5月	消費支出 (前月比) 季調値
	21:30	米国	5月	コア 個人消費支出 (PCE) 価格指数 (前月比)
	23:00	米国	6月	ミシガン大 消費者信頼感指数 確報値
	納会	日本		東京貴金属2021年6月限納会日
	納会	日本		東京小豆2021年6月限納会日
	納会	日本		東京石油製品2021年6月限納会日
6月26日(土)	4:00	米国	5月	USDA-キャトルオンフィード
6月27日(日)				

(※)発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

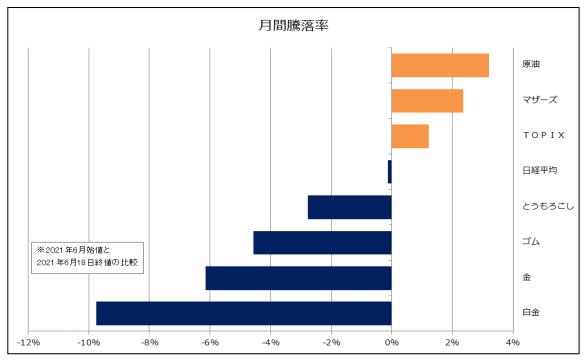
^{13 -} 当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

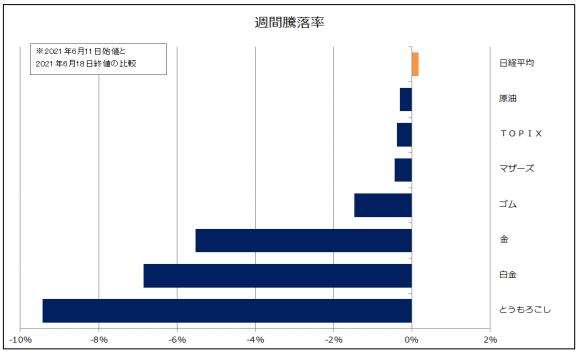
● 日産証券

CX週間展望(6月21日~)

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】





⁻当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸 経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生 じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあり ます。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる 手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交 付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社(〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町 1-38-11) 関東財務局長(金商)第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者 <加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。